みんなの広場

みんなのギャラリー

◀「わたしがかいたのあれだよ」。年に1度の七夕、21世紀を担う子どもたちが自分の夢や願いを短冊に書き飾り付けました。7月7日(月)／市役所1階市民ホール

▲手回しオルガンショーや模擬店等、多くの来館者でにぎわった「第27回つばき子どもまつり」。

このほかにも市内の児童館では、おまつりやイベント等のさまざまな行事が行われています。詳しくは市ホームページ（「児童館でたのしく」で検索）でご覧になれます。　7月12日(土)／つばき児童館

▶職場体験学習のために来た中学生たちと、楽しそうに遊ぶ子どもたち。子どもたちの笑顔が光ります。7月1日(火)／市内保育園

写真・文／中央中学校1年・早川　敬
撮影指導／市民カメラマン・村田ひろこ

▲「はっけよーい、のこった」紙ずもうや、竹とんぼ作りなど昔からの遊びを今の世代に伝える「第11回まつい三世代まつり」。6月21日(土)／松井公民館

（撮影／市民カメラマン・木村清貴）

みんなで楽しくエコ活動！

環境レポーター“エコちゃん”が行く

「地球にやさしい学校大賞」決まる！

大賞（小学校の部）“所沢市立明峰小学校”編

「資源が循環するエコスクールの構築」

◆「地球にやさしい学校大賞」はどんな賞なの？

市では、児童・生徒、教職員および保護者が学校版環境ＩＳＯプログラムに取り組み、環境意識を高め創意工夫し環境改善を行っている小・中学校の中から、特に優れた取り組みを行なった学校を表彰しています。

◆どんな活動をしているの？

給食の調理から出る野菜くずなどを利用して「エコ堆肥」を作り、学校農園や草花栽培に利用しています。また、学校の近くの地主さんから畑を借りて5年生が野菜作りをしています。生ごみから作った「エコ堆肥」を活用することにより、ごみ減量や資源循環のしくみを身近で学んでいます。

◆どんな野菜を育てたの？

- 夏野菜……トマト、ナス、きゅうり、とうもろこし、スイカなど
- 冬野菜……白菜、大根、チンゲンサイ、春菊、ミズナなど

◆収穫した野菜はどうしたの？

給食（自校給食）や調理実習で使ったり、家庭に持ち帰り親子で料理をしたりして使いました。

◆どんな成果があったの？

- 好き嫌いが減った。
- 家族で環境のことを話すようになった。

～昨年は各種エコイベントにも参加しました～

▶10月…「ストップ温暖化SAITAMAフェア07」に参加して、エコ堆肥を配布し活動を紹介

▶12月…「子どもエコシンポジウム」に参加して、自分たちの活動紹介や意見交換、パネル展示を実施

問い合わせ　環境総務課（☎2998-9133・FAX2998-9394）

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『暑さ対策』▶文章は添削あり▶締め切りは**8月8日(金)必着**▶掲載者には記念品を進呈

◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはＥメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

はつらつ野老（ところ）っ子

夢だったプロサッカー選手に

渡部　大輔さん（山口在住）

所沢西高校を今春卒業した渡部大輔さんは、大宮アルディージャのユースチームからトップチームに昇格し、プロサッカー選手になりたいという幼稚園のときからの夢を実現させました。

本格的にサッカーをはじめたのは、小学３年生のときに友だちの誘いで、地元のサッカーチーム山ロサントスに入ってからです。このころは、特にサッカーセンスがあったわけではなく運動神経が良かっただけの子どもでした。６年生になると関東地区の選抜選手に選ばれるほどに上達しましたが、将来を嘱望される選手が選ばれる「ナショナルトレセンには選ばれず悔しかった」と振り返ります。

中学校に入学するときに大宮アルディージャJr.ユースのセレクションに見事合格し、Jr.ユースの一員として練習に参加していました。入団当初は、小学生のときの延長のような気持ちでサッカーをしていたら、周りの選手のレベルが高く、かなり苦労したとのことでした。しかし練習を積み重ね努力した結果、ナショナルトレセンに選ばれるまでになりました。

トレセンでは、日本代表として外国のトップ選手と試合をします。そこで、レベルの違いを肌で感じた渡部さんは「外国の選手は日本の選手には無い筋力や能力を持っており、それを補うためには、もっと頑張らなければいけない」と思ったそうです。

その後もJr.ユースチームからユースチームと進み各年代の日本代表に選ばれるようになり、2008年シーズンから念願のＪ１・大宮アルディージャのプロサッカー選手になりました。

プロになってからの目標はと尋ねると「１日も早く試合に出場し、ストライカーとして点を取って活躍したい」、「大輔がいなかったらこのチームは成り立たないと言われるぐらいの中心選手になりたい」と熱く語ってくれました。

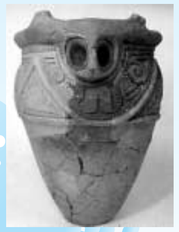
子どもたちへ「自分でやりたいことを見つけたときは、人生が楽しくなり、いきいきとしてくるので、やりたいことをとことんやって欲しい」とメッセージをいただきました。渡部さんがＪ１のピッチに立って活躍する姿が楽しみです。

歴史再発見 ところざわの文化財

所沢の土器　色々　～縄文土器～

所沢市内では、埋蔵文化財の発掘調査がほぼ年間を通して行われています。調査によって私たちの祖先の生活の跡や道具類が、何百年あるいは何千年という時を超えて、平成の世に姿を現します。このうち、年代を決めるための手がかりをはじめ、多くの情報を与えてくれるものに土器があります。今回は、市内で出土する土器の中でも最も多い縄文土器について紹介します。

土器の出現は今から約12,000年前といわれ、それは縄文時代の幕開けでもありました。土器は、人々の生活を大きく変化させました。食物の保存や調理を可能なものとし、安定した定住生活をもたらしたのです。「縄文」とは、縄の回転によってできる土器の模様のことで、この時代の土器の特徴を示したものです。市内で出土した縄文土器は、そのほとんどが約4,000～5,000年前のものです。このころは、縄文時代の中で最も豊かな生活を送ったといわれており、土器にも単なる器としての機能にとどまらない華麗な装飾を施したものが出現します。写真の土器は、ふくろうをモチーフに作られたと推測されています。



市内で出土した土器は、埋蔵文化財調査センター（☎2947-0012・FAX2947-0048）で収蔵・展示しています。また、この夏休みには「臨時開館」および「夏休みこども宿題相談」を開催します。ぜひ１度足をお運びください。詳しくは情報館11ページをご覧ください。

問い合わせ　文化財保護課（☎2998-9253・FAX2998-9128）

誰でもエッセイ

◆テーマ「貴重な体験」

山寺での仕事

和ケ原・田中　隆清

第２の人生に入った今、健康に恵まれ月の内10日間山寺で働いている。山寺での勤務は、自然が多い中で四季折々の移り変わりを楽しむことができる。

私の仕事は、寺の年間行事を覚え、それぞれの準備をすること。中でも年末から年始にかけた初護摩式は最大行事のように思う。寺の内側で働くことはもちろん初めてで、すべてが大緊張の連続で夢中で覚え、そして頑張ってきた。毎日のことだが、境内と参道の掃除は大切な仕事の一つ、落ち葉の季節の掃除は難儀で大仕事だ。寺の環境は一般と違って苦労はあるが、毎日楽しく働け、私には貴重な体験だと思う。

写真撮影っておもしろい！

中央中学校1年・早川　敬

職場体験学習で、僕は所沢市役所の秘書広報課へ行きました。それで僕は市内の保育園へ取材に行きました。そこでは、僕たちと同じように職場体験学習に来ている中央中学校の生徒がいて、園児と一緒に外遊びをしたりプールに入ったり、夏祭りで使うお化けなどを作ったりと、いろいろなことをして遊んでいました。

僕は、子どもたちと遊ぶ姿のほかに、給食やお昼寝のようすなども撮りました。

カメラはシャッターを押せば写るとしか考えていませんでしたが、撮影目的に応じてアングルを考えたり、写る人の表情を引き出したりすることにとても感心しました。

この職場体験学習でカメラが好きになり、写真に興味が持てたことは、僕にとって貴重な体験になりました。

失敗こそ貴重な体験

若狭・田原　敬三

人は概して失敗した苦い体験は語りたがらない。失敗の体験談は体裁のいいものではなく、恥ずかしくて自尊心が傷つくように思うのは人情だろう。ただ、個人の失敗や苦慮した体験談の中には成功への秘けつ以外に貴重な教訓が含まれるケースが多い。

直接経験したくてもなかなか容易にできない体験の中から、二度としくじらないための生活の知恵として、将来に生かされるべき教訓が得られれば、それこそ貴重な体験である。だとすれば、公表されないままにしておくのは、もったいない気がする。

多くの人が似た失敗を繰り返さないために、個人の失敗の体験から得られた知識や情報を、プライバシーや機密事項などは除き、できるだけ互いに分かち合い提供し合える世の中にならないものか。